サロン

第 51 回ヨーロッパ高圧研究グループ会議 (EHPRG51-London, UK) 参加報告

Report on the 51th European High-Pressure Research Group Meeting

長柄 一誠

Hitose NAGARA

毎年ヨーロッパで開かれている高圧グループ会議の第 51 回会議 (EHPRG 51) が、今年はイギリスの Queen Mary University of London 校で、9 月 1 日から 6 日にかけて開催された。キャンパスはロンドン東部にあり、2012 年のオリンピック会場地域に近い。ロンドン観光を考えていた参加者は中心部のホテルに滞在したようだが、多くの参加者はキャンパス内の Student Village という宿泊施設に泊まっていた。部屋は清潔で、朝食付き 1 泊 56 ポンドであり、中心部のホテルよりかなり安い料金で滞在出来た。また 1 週間 6 ポンドで、宿舍の部屋での無線 LAN も使用できた。このような施設は Edinburgh 大学等にもあったが、どこも運営は外部の業者に委託されているようだった。海外からの参加者を呼んで、簡単に会議を開けるこのようなシステムは、参加者や会議主催者にとって大変便利である。統計は発表されなかったが、参加者名簿で数えると 180 名程度の参加者数で、日本からの参加者は 16 名程であった。7 月始めに AIRAPT の会議がシアトルであったせいか、アメリカ、カナダからの参加者は少なく、中国からの参加者もほとんど見られなかった。

私自身、EHPRG 会議には何回か参加しているが、最近ではほぼ同様な会議の構成になっており、毎日 1, 2 時間のプレナリーセッションに続いて、3 つの部屋に分かれての話題ごとのセッションが、休憩をはさみながら夕方 6 時頃まで続いた。セッションの主な話題は、次のものであった。1) Condensed matter physics, 2) Simulations, 3) Geosciences, 4) Chemistry and molecular systems, 5) In-

Fig. 1. (Color Online) Queen's Building at Queen Mary University of London.

strumentation metrology and techniques, 6) Soft and biological materials. 全てのセッションに顔を出したわけでもなく、また理論をやっている筆者の偏った興味からであるが、特に印象に残った話を 2 つほど挙げておく。日本の近畿大学から参加されていた K. Akasaka 氏の Revealing protein dynamics with high-pressure NMR は、タンパク質の fluctuation が何十億年もの生物の進化と関係している、それが高圧下の NMR によってわかるという話で面白かった。また水曜日朝の EHPRG Award Lecture での、The microscopic view: Understanding pressure phenomena from the chemical bond という題のパリ第六大学 (Pierre and Marie Curie University) J. Contreras-Garcia さんの話も、ELF や NCL という理論計算ツールで得られる Chemical bond の情報から、高圧力下の現象がいかに理解されるかの話で興味深かった。EHPRG 賞の授与は彼女自身がこれらのツー

〒680-8552 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学大学院 工学研究科
Graduate School of Engineering, Tottori University, 4-101 Koyama-cho-minami, Tottori 680-8552
Electronic address: nagara@damp.tottori-u.ac.jp

Fig. 2. (Color Online) “Pub” in the Queen’s Building.

ル開発に関わっていることによるとのことであった。ポスターセッションの時間は火、木の夜6時から8時半まで取られていて80程の発表があった。食事は、このポスターセッションの会場で、椅子は無く立ったまま食べる形式だったが、その間にもポスターが見られたので、ポスター発表を閲覧するのには有り余る時間があつた。

我々はキャンパス内宿舎に滞在していたので、夜も時間があり Fig. 1 の建物内にある Pub のようなお酒の飲める部屋に行き、飲みながらしゃべった日が何日かあった。Fig. 2 はそこで飲みながら歓談している参加者の写真である。パブが発達していて、気軽に飲みながら歓談が出来るイギリスでは、当然の風景かも知れないが、イギリス以外でも見かけたことはある。日本でこのような部屋は、国立大は勿論、私立大でも学内にはほとんど見かけないが、これもリラックスした訪問者との交流には大変役立つ。

バンケットやエクスカージョンはなく、水曜日の午後から夜が自由時間に充てられていた。好きな所に出かけ、好きなお酒を飲み、好きな食事をするなど、それぞれ自由に楽しんだ。ロンドンには見どころが沢山あり、それに埋もれてか、科学技術史的なものは少なく感じるが、我々はその日、0 度の子午線が通っているグリニッジを訪れた。マリタイム・

Fig. 3. (Color Online) Looking up a ceiling of a building of Old Royal Naval College.

グリニッジの名前で世界遺産に登録されている由緒ある港町であるが、ロンドンの中心から少し離れていることや、日本のガイドブックでメインスポットとして紹介されていないせいか、日本人には全く出会わなかった。天気が良かったので、天文台のある丘にあがると景色がよく、新しい金融街まで見渡せた。Royal Museums Greenwich の4つの施設のうちの1つになっているグリニッジ天文台のギャラリーを見て、当時の命をかけた大洋航海にとって、自分の位置を知るための天文学や時間がいかに重要だったかがよく理解出来て面白かった。ここまで船がテムズ河をのぼって来ていた時代、グリニッジは海軍王国イギリスの重要な拠点でもあったらしい。現在一部をグリニッジ大が使っている旧王立海軍学校の建物の中の素晴らしい天井壁画が Fig. 3 である。この建物は Painted Hall と呼ばれ、建物自体も素晴らしく、映画「パイレーツオブカリビアン」でも撮影に使われたそう。旅行者が自由に動きやすい環境の整った都市での会議開催であり、水曜日の長い自由時間は、ロンドンならではの配慮で悪くはなかった。